

主体性と多様性で創る 特別な時間

ライセンス第2委員会 委員長

米森 啓太 氏

(所属：キャノン株式会社)



interview

自己紹介

メディカル分野における特許リエゾンに始まり、同分野でのライセンス交渉や各種契約、プリンティング分野での警告・訴訟等を経験し、現在はメディカル分野の知財戦略検討を担当しています。

ライセンス委員会には2022年度から参加し、2023年から3年間、小委員長としてAI×知財渉外・契約に関するテーマを研究。2026年から委員長を任されることになりました。

趣味は、25年続けている弓道です。

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

ライセンス委員会（ライセンス第1委員会およびライセンス第2委員会）では、知財ライセンスや共同研究契約といった伝統的な渉外・契約関連のテーマを扱う一方で、近年ではデータ、AI、人材、組織など、無形資産全体へと対象を広げています。

研究テーマは、大きく2つの段階を経て決定されます。最初の段階では、毎年秋に委員会メンバーを対象としてアンケートを実施し、その結果を踏まえて正副委員長が協議を行い、次年度の委員募集に向けた暫定テーマを定めます。次の段階では、その暫定テーマに関心を持ってライセンス委員会に応募した新たな委員会メンバーが、春から夏にかけてじっくり議論を重ねながらテーマを具体化し、最終的な研究テーマを決めます。

このプロセスは、その時々メンバーの興味・関心を捉えることで、一人ひとりが主体的に委員会活動に向き合えるようにし、質の高い成果へとつなげるために培われてきた、ライセンス委員会の知恵そのものです。今後も、委員会活動を取り巻く環境や要請の変化を踏まえながら、必要な見直しとアップデートを重ね、より良い仕組みを作り上げていきたいと考えています。

Q 委員会の特長／魅力は？

ライセンス委員会には、企業の知財部門で渉外・契約業務一筋に活躍してきた方々をはじめ、権利化業務を経験した後に渉外・契約担当へ転じた方々、法務部門でガバナンス業務を担当している方々、大学で産学連携を推進されている方々、さらには法律事務所や特許事務所で渉外・契約業務の代行やコンサルティングを行っている方々など、実に多彩な人材が集まっています。

業界・業種の異なるメンバー同士はもちろん、同じ業界・業種に属するメンバー同士であっても、バラエティに富んだ視点でテーマに取り組むことができる環境があることは、本委員会の特長であり大きな魅力の一つだと考えています。

Q 委員会としてのこだわりは？

ライセンス委員会は、メンバーの皆さんが2つの楽しさを実感できる場でありたいと思っています。一つは、真剣な議論を通じて知的な刺激を味わい、成長する楽しさ。もう一つは、議論の合間やその後のネットワーキングで、肩の力を抜いて仲間と深くつながる楽しさです。

単なる成果主義でも、ただの仲良しグループでもない。派遣元の各社で評価される確かな学びと、一生モノの仲間との出会いが両立する、充実した時間を共有していける。そんな組織を目指しています。